



学校法人
浪速学院
<http://www.naniwa.ed.jp/>

浪速高等学校
浪速中学校

本校の歴史その24:「第3代校長岡阪一福先生とその後の校長事務取り扱い三宅篤夫先生」

No.34 木村理事長・学院長 平成25年度公式メッセージ
(平成25年5月12日アップ)

本校の歴史その24

「第3代校長岡阪一福先生とその後の校長事務取り扱い三宅篤夫先生」



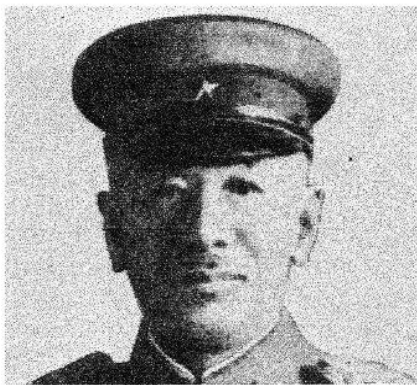
昭和11年6月12日付け新校舎建設工事略記
 ここには岡坂一福校長とある



昭和18年10月1日 創立20周年記念式典
 勤続年以上の先生の表彰



昭和18年10月1日 創立20周年記念式典



三宅篤夫校長事務取扱
 昭和17年12月21日から
 昭和19年4月30日まで
 陸軍士官学校卒、陸軍少将

三宅校長事務取扱



昭和19年卒業記念帳から
 教職員写真 前列右側6人目
 軍服姿の三宅校長事務取扱

- ・ 公式メッセージに掲示してきた本校の歴史は平成23年9月8日「その23: 神道の教育」で止まったままになっている。約1年半も休止したままで少なからず気になっていた。校長の留書きを休筆していることもあって余裕が出て来たから再開することにした。

直近でまとめた「本校の歴史」は:

- ・ その18: 第三代岡阪一福校長
- ・ その19: 末吉栄三先生
- ・ その20: 伊勢大廟と伊勢修養学舎
- ・ その21: 旧学院神社の盛衰
- ・ その22: 御陵参拝
- ・ その23: 神道の教育 と来ている。
- ・ 今回の歴史その24は「第三代岡阪一福校長のその後と三宅篤夫校長事務取扱」について纏める。私はこの岡阪一福という校長先生に大変な関心や思い入れがある。この先生はまさに激動の浪速中学時代を先頭に立って頑張った校長先生だったと思う。
- ・ 昭和9年9月8日第2代内田勇助校長死去、9月14日この日内田校長の学校葬、9月21日室戸台風で校舎倒壊、11月21日奥村泰助校長事務取扱就任、12月21日岡阪校長就任、翌昭和10年3月8日新校舎地鎮祭と学校は目まぐるしく揺れていた時であった。
- ・ そして岡阪校長先生は8年間の校長としての奉職の後、昭和17年9月17日に現役校長のまま死去された。9月26日に学校葬が営まれている。これで2代続けて浪速中学は現役の校長を亡くしたことになる。この岡阪時代の8年間はまさしく日本が先の戦争に突入した時期でもあった。
- ・ 歴史をひも解いてみると、同時にこの岡阪時代に学校の施設や活動の形態が定まったことが良く分かる。即ち「学校の形」が完成したのである。しかしそれは軍国の息吹と共に進んでいったものであった。
- ・ このような時代の流れの中であったが岡阪校長は室戸台風の後始末と新校舎の建設に邁進された。最大のご功績であろう。大体「売り家と唐様で書く三代目」などと通常三代目は人材を得ずにぼんくらみたいに擲擧されるが本校では徳川三代将軍家光と同じように第三代岡阪校長を載いて極めて幸運であったと言える。
- ・ 岡阪校長は本校始まって以来の内部昇格の校長であった。それも明治37年國學院大学12期卒業生として神職の資格を有した最初の校長でもあった。私はこの先生の事を調べるべく奔走した。南坊城理事長職務代理のご尽力を得て國學院大学の卒業名簿から先生が香川県のご出身という手がかりを得たのである。
- ・ 私は大阪府神社庁を通じて香川県神社庁に問い合わせた。そうすると坂出市にある八幡神社に岡坂という名字の宮司様が居られるという情報を得た。しかし調査してくれた大阪府神社庁の女性職員は阪の字が異なり坂出の方は坂の字だと言う。
- ・ 私は早速この神社に電話して問い合わせた。お電話の相手は当神社の宮司さんで確かに一福という名の先祖が居たと述べられたのである。遠い親戚だとも言われた。姓についてもどういふ訳か知らないが一福氏は坂を阪に変えたらしいということも電話口のご本人は知っておられたのである。
- ・ 坂出の神社のご出身で当代の曾祖父の兄弟が岡阪校長先生という事が分かった。大阪の学校の教師をして「短命で亡くなられたと聞いています」と言われた。私はお墓はどこにありますかと聞くと奈良の方だと言われるのである。

- ・ ご親切にも今となつては遠い親戚の奈良の岡阪家の電話番号を教えて頂いた。早速私は奈良の岡阪家に電話してお話を伺ったが大変に感じの良いご家庭で曾祖父が大阪の学校の校長をやっていたまでは知っていますと答えてくれた。お墓は近くにあると言う。
- ・ どのような病名で亡くなられたのか子孫の方もご存じなかったが室戸台風による廃校の噂の出るなかで獅子奮迅のお働きをされたのが寿命を縮められたのではないだろうかと思ってしまう。もって瞑すべき。
- ・ 書きながら私は今悩んでいることがある。それは校長と校長事務取扱という職位についてである。本校の歴史においてはこの事務取扱というのが結構多い。それは現役のまま突然校長が亡くなった時に後任が間に合わず救援バツターとして急遽登板するケースの場合に事務取扱という職位を当て嵌めている。
- ・ 亡くなられた岡阪一福校長後の校長事務取扱は「三宅篤夫校長事務取扱」その人であった。任期は平成17年12月21日から昭和19年4月30日までだから事務取扱としては異例に長い。16カ月に及ぶ。恐らく戦争の真つ最中でもあって後任選びに時間を有したのではないかと想像できる。
- ・ 三宅篤夫校長、陸軍士官学校卒、陸軍少将、国学院理事、難波神社宮司さんであった。この経歴から事務取扱に就任されたのだと思う。ここでは校長と校長事務取扱は区分するために第4代校長とは呼称せず三宅篤夫校長事務取扱と表現することにする。
- ・ この三宅先生、いかめしい経歴や肩書もあるがご本人は「難しい顔も出来ないので、早速恵比寿さんと付けられたと述懐されている。軍人であるがゆえに、当然戦雲苛烈な時でもあったからお話の節々には愛国、勤労、共栄の道に大東亜の人材たらんことを切望されたという伝承は仕方のない事だと私は思う。
- ・ 創立20周年記念日は昭和18年5月1日であったが記念式典は準備その他の都合で10月1日に延期されたという。当時の資料は一切残存していないのが残念である。戦争がはげしくなつてきており三宅校長事務取扱の「出来るだけ簡素に」のご指示の下、秋晴れの日には質素にして喜びの熱意に溢れて式典は終わったとの一文のみが60年史に残っている。
- ・ ここに面白い一文がある。昭和25年に新制浪速高等学校を卒業した今江隆道さんという人が「校長は少将」と題しているものである。第二次世界大戦中の昭和19年に入学したのだが入学式で忘れられないことがあったと書かれている。
- ・ それは神殿前に整列した新入生と保護者に対して「私が本校校長三宅少将である。父兄の方は帰ってよろしい。」これが三宅校長の第一声だったという。少年兵に憧れていた今江さんは目の前にいる軍服姿の校長がより一層威厳ある校長に見えたと言う。浪中に入學して良かったと思ったがそれもつかの間1か月後には松岡万次郎校長と交代されたので結局入学式の写真は三宅校長のものではなかったから残念だったとあるのだ。
- ・ 一方昭和19年卒業の檜垣英雄さんは「愛染かつらの頃」の題名で三宅校長事務取扱のことを以下のように記している。「卒業時の校長は三宅先生で、たしか陸軍少将だったと記憶している。祝祭日や行事の時は軍服軍刀のいかめしい姿で軍国時代の将官として肩で風切るカッコよさを誇っていたように見えた。ただお年のせいか、訓示などで時々ピント外れで生徒たちが苦笑したことを思い出します。
- ・ 又60年史には英語科の教諭であった山本重武先生が「七つの憶い出」の題で一文を残されているがその中に当時の時代背景を伺わせるものがある。“五：軍人 配属将校が少佐、教練教官が中佐という時代を経て三宅少将が校長になられた頃、「校長閣下に頭中(かしらなか)」という号令を平石教頭先生がかけられたりしました。・・・”この平石教頭は後に第五代校長になるお人だ。